

「巻頭特集」滋賀県立虎姫高等学校

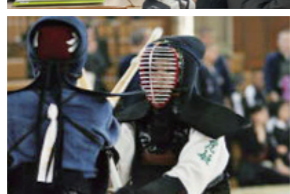
100年の伝統と

誇りを胸に

11月7日、晴れ渡る秋空の下で創立百周年記念式典が開かれました。大きな節目となる式典を企画・運営したのは、実行委員会を中心とした生徒たち。多くの賓客と姉水会（しすいかい）の先輩が見守る中、重庄にも負けず、見事式典をやり遂げました。今号は、滋賀県立虎姫高等学校（以下、虎姫高校）のあゆみと式典の様子をお届けします。



上) SSHの取り組みとして、長浜バイオ大学で実習に参加した様子。PCR法を用いて、豚肉から抽出した遺伝子を増幅し、電気泳動で確かめるなどの検査にチャレンジしました。右) 国際バカロレアの教育プログラムでは、全6科目のうち「英語」と「環境システムと社会」の2科目において英語で学びます。IB試験で一定以上の成績を取めると、海外の大学の入学資格を得られます。右下) 全校生徒590人のうち、92%が部活動をしています。12の運動部のほかに9の文化部があります。



した。これに対して、湖北3群（東浅井郡、坂田郡、伊香郡）を挙げた存続運動が起こり、泣く子も黙る軍政部に立てついたので。結果、一時は「湖北高校虎姫校舎」となりましたが、2年後の昭和26年に再び、虎姫高校の独立が認められました。

た教育プログラムであり、生徒は令和2年12月から、日本語と英語を使いながら6つの科目と「課題論文」「知の理論」「創造性・活動・奉仕」という3つのコアを主体的に学んでいます。今日までの100年間には、勉強がままならない時代もありました。第二次世界大戦の末期、生徒は生徒動員で散り散りに、運動場は一面の芋畑になりました。そして、廃校の危機を乗り越えて、今に至ります。梅本剛雄校長は「わが校をここまで築き上げてくださった地域の皆さんや先輩方の思い、その歴史を、まずは生徒に知ってほしいと思います。そして、伝統の重みを理解したうえで、伝統を新しくつくるためのチャレンジをしてほしい」と、次の100年を見据えました。

Report みんなでつくった創立百周年記念式典



企画・進行を生徒が担当！
100年目のチャレンジ

本来は令和2年に予定していたものの、新型コロナウイルスの影響から中止を余儀なくされた創立百周年記念式典。11月7日、感染防止策を講じた上で、ようやく開催することができました。

この日、進行役を担ったのは実行委員会の生徒たち。梅本校長は「虎姫高校らしさを検討した結果、企画から進行までを生徒が担う記念式典にしたいと考えたのです」と振り返ります。

翌年に持ち越したことで、企画はすべて白紙の状態。1学期の終わりに実行委員会を結成し、急ピッチで準備を進めました。式典は2部構成で、後半は生徒の手による企画発表が会場を盛り上げました。

幾多の苦難を乗り越えて地域が支えた100年
旧制虎姫中学校に始まり、創立から100年を迎えた虎姫高校。文武両道の進学校として知られ、これまでに2万人を超える卒業生を輩出しています。

わが国の近代教育は、明治5（1872）年に発布された学制にかのほりです。全国を学区に分け、大学校8校、中学校256校、小学校5万3760校を設置する大きな計画であり、最初に6歳以上の男女を対象とした小学校の設置が進みました。のちの明治19（1886）年に学校令が制定されると、明治末期にかけて義務教育の制度化および再整備が進みました。

大正初期、滋賀県内の公立中学校（旧制）は、彦根と膳所にしかありませんでした。大正8（1919）年、湖北に中学校を設置する話が広まると、虎姫村の村長を務めた田中豊文氏を中心に、東浅



虎姫中学校の開校時は、虎姫尋常小学校内の仮校舎に始まりました。写真は、大正10(1921)年から翌年にかけて完成した初代の校舎です



滋賀県立虎姫高等学校
梅本剛雄 第33代校長

井郡虎姫村（当時）に開校を望む請願運動が起こります。同氏は誘致に向けて、連日連夜、寝食を忘れて奔走しました。その努力は実を結び、翌大正9年に滋賀県立虎姫中学校の開校が許可されたのです。虎姫村からは土地「五町歩」、近隣の11の村々から土木費として「金参萬圓」、ほか有志から多額が寄付されたといわれています。

時代は第一次世界大戦（大正3（7年）の終戦直後。連合国側で勝利した日本は、戦争特需による利を得て、世界3位の海運国へと躍進しました。虎姫中学校の開校にあたっては、当時の浮ついた気風をいましめる意味から、「質実剛健」が校訓として定められたのです。この言葉には、「飾り気なく真面目であり、強くたくましくあれ」という願いが込められています。

虎姫中学校は、のちの学制改革によって、昭和23（1948）年に虎姫高等学校（新制）へと変わり、男女共学となりました。しかし、その発足直後に突然、廃校問題が持ち上がります。GHQの下部組織である滋賀軍政部が「滋賀には高校が多すぎる」として、「9校に統合せよ」との命令を下しま

100周年式典は前例がなく、どうすればOBやOGの方、在校生に楽しんでもらえるかをゼロから考えなくてはなりませんでした。虎姫高校に憧れて入学しましたが、偶然の重なりで大役をお受けでき、本当に喜びを感じています。

直前までバタバタして不安もありましたが、なんとか式典を終えられたと思います。虎姫高校の1世紀にわたる歴史はとても重みがあり、100周年という大きな節目に、先輩方が得てきた信頼のおかげだと思います。

7月から4カ月間で準備しました。メンバーがいたからこそ、成し遂げられたと思います。式典といえば先生がつくるものだと考えていましたが、そこを生徒に任せてもらえたのが、先輩方が得てきた信頼のおかげだと思います。

式典には裏方として動きつつ、プレーヤーとしても登壇したほか、新聞部では、式典を盛り上げるべく活動してきました。急ピッチで準備を進めたため、当日はトラブルもありましたが、その悔しさを今後に生かしたいと思います。

デジタルカメラやドローンを使った映像制作にチャレンジしましたが、仲間がいたからこそできたと感じています。取材先のいろんな方から「私も虎高の出身だよ」とお声がけいただき、学校の歴史を感じることができました。



生徒会長
さいとう じんせい
2年 齋藤 甚聖さん



生徒副会長
はやし くるみ
2年 林 久瑠海さん



生徒副実行委員長
にのみや はるか
2年 二宮 遥香さん



新聞部部长
いまい ひなた
2年 今井 陽南太さん



実行委員会
なかつ ましき
1年 中田 喜雅さん



予告動画や式典の様子、当日に残念ながら機器トラブルで公開できなかった映像コンテンツなどを、虎姫高校の特設チャンネルから視聴できます。生徒たちの「虎高愛」がたっぷり詰まった映像をいまずくチェック！

Information
滋賀県立虎姫高等学校
長浜市宮部町2410
0749-73-3055